

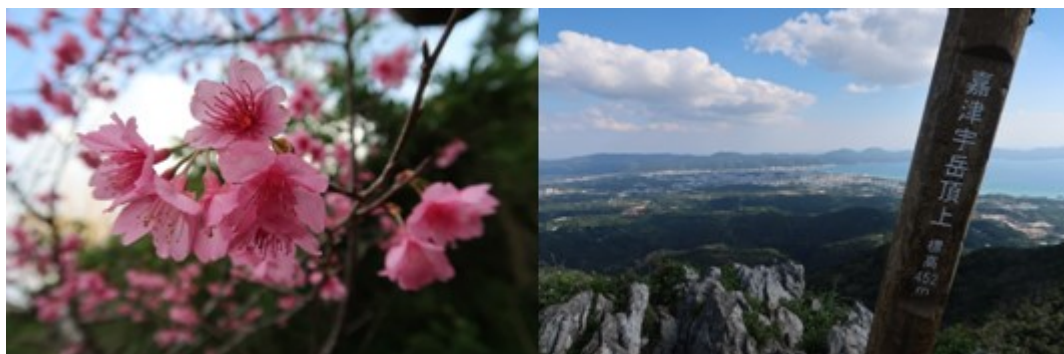
## 沖縄からの花便り

## 泉州勤労者山岳会 大西清見

<日程>1月23日(水) 関西国際空港ー那覇空港ー那覇ロワジールH/24日(木) 沖縄陸軍病院南風原壕群ーガンガラー谷ー糸数アブチラガマー本部グリーンパークH/25日(金) 八重岳中腹ー辺野古ーデーサンダームイ(230m、歩行約40分)ー嘉津宇岳(452m、歩行約1時間)ー恩納村みゆきビーチH/26日(土) 那覇空港ー関西国際空港

<参加者> 大西清見(C.L.)・吉田由美子・他2名 計4名

1月23日～26日、山仲間4名で沖縄に行ってきました。私の冬の沖縄は10年目(何れも3泊4日約3万円の格安です)、今回は緋寒桜(ヒカンザクラ)の開花に合わせて1月下旬に企画しました。気温は18～21度と暖かく、本部半島八重岳中腹の桜並木では美しい緋寒桜を鑑賞することができました。緋寒桜は濃い桃色で、花の大きさは2.5cm程度、花弁は下向きなのでとても撮影しやすく、みんないつまでもデジカメのシャッターを切っていました。本部半島一帯では26日から桜祭りが始まるそうです。沖縄には至るところにハイビスカスの花が見られ、いくつかの山麓にはツツジやカタバミなどの群生も。1月とは言え、沖縄はまさに「桜ひらり、春さきどり」の4日間の旅でした。



本部半島・八重岳中腹は緋寒桜が開花

嘉津宇岳山頂はカルスト地形、名護市街を望む

今回の戦跡は沖縄陸軍病院南風原(はえばる)壕群20号(南風原町)と糸数アブチラガマ(南城市)へ、共にガイドをお願いして見学しました。南風原壕群20号は、日本軍が沖縄戦(1945年)に備え南風原町の小高い森に構築した陸軍壕群の一つで、ひめゆり学徒もここで傷病兵の治療にあたったそうです。20号は長さ約70mの人工の横穴壕で、狭い空間に患者の病室や手術場もあり、沖縄戦の実相を垣間見ることができます。糸数アブチラガマは、全長270mの自然の洞窟で、沖縄戦時の戦場の南下後に南風原陸軍病院の分室として利用されました。戦争が激しくなると、ガマは軍民同居のかたちとなって米軍の攻撃の的となり、多くの命が失われることになりました。このように伝えられる沖縄戦の実相からも平和についてもっと学習していきたいと考えています。

登山はデーサンダームイと嘉津宇岳。デーサンダームイは地元では日本唯一の円錐カルストとよばれ、その素晴らしさは頂上からの眺めでした。嘉津宇岳は東シナ海を見わたす本部半島の主峰、頂上から名護市の市街地も一望できます。登山道は亜熱帯の樹林、吉田さんはシークワサーの実をゲットしていました。その他、沖縄のガイドブックに掲載の少ないガンガラー谷(鍾乳洞が崩壊してできた谷間)もガジュマルの大木や約2万年前の人類居住跡の発掘現場もあり見所いっぱい。25日には辺野古にも寄って新基地建設反対で頑張っておられる方たちを激励に。沖縄を日本全体の問題として考えたいものです。

(泉州労山『やまなかま(2019.2.6)』より転載)

